

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名	さくらさくみらい 豊玉北
施設所在地	東京都千代田区有楽町1-2-2 東宝日比谷ビル
事業者名	株式会社さくらさくみらい

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

昨年度の年長児が様々な楽器や鳴子を使用しているのを見て「自分たちもやってみたい」と興味を持っていたため「音」をテーマとして設定する。

自作での楽器を作ったり玩具で様々な音を出して楽しんでいる姿から身近にある音や楽器の音など興味関心を広げていくため。

2. 活動スケジュール

6月～ タンバリンなどの楽器に日常的に触れる機会を作る

7月～ 廃材で作った物で音を出すことを楽しむ

9月～ 鳴子の音に触れる。音の出し方を考えたり、持って踊ったりすることを楽しむ。

11月～ 楽器の種類を増やし好きな楽器や音を見つける

2月 音の活動の集大成として自分たちの選んだ曲を保護者の前で発表する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・製作用の廃材 ・テープ スズランテープ
- ・タンバリン ・木琴 ・鉄琴 ・鳴子 その他、各種楽器

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・遊びの中に楽器を取りれることで音や楽器への興味が広がった。
- ・楽器の種類が増えることで音の出し方が違うことや、同じ楽器でも強弱で音色が変わることを探究した。
- ・同時に楽器を鳴らすことで音を合わせてできる響きや音楽に合わせたリズムを探究した。
- ・自分たちの好きな曲と楽器で合奏を行い、子どもたちの考える音を探究した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり)

音を再現するにはどうした良いのか考えたり、実物に似せるために廃材を工夫して組み合わせたりして手作りの楽器作りを楽しんでいた。

楽器を自分たちで作ることで園にはない楽器に興味を持ち「〇〇がしたい」という声子どもから挙がった。

そのため楽器の種類を環境として増やすことで興味も広がり様々な楽器に触れることを楽しんだ。

似た楽器でも響きや音色が違うことに気が付き「こっちの方がいい」「これはどう？」と音の探究が始まっていた。

その後発表会に向けてそれぞれ好きな楽器を選びみんなで演奏することを楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

楽器を増やしたことで興味や探究活動が深まったので種類を増やす時期を早めればより探究が深まったのではないかと感じた。また各々好きな楽器を交代で演奏したりすることで自分の好きな楽器や別の楽器の良さなどにも気づく姿があった。発表会当日は自分の好きな楽器でそれぞれ異なるパートを演奏したことで責任感を持ちながら集中して取り組む姿があった。その中で主体的に環境に関わることで興味関心の広がり、責任感が「もっとこうしたい」という探究心につながることに、環境の大切さに気付いた。

令和7年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	さくらさくみらい 豊玉北
施設所在地	東京都千代田区有楽町1-2-2 東宝日比谷ビル
事業者名	株式会社さくらさくみらい

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

戸外活動が好きな子が多く、虫など自然の物に興味を持つ子が多くいたため設定した。戸外活動では積極的に自然に親しみ、カブトムシの飼育、野菜の生長観察など通し常に興味を持てる環境を設定していった。また、周囲に公園が多くその場所その場所で様々な自然に触れることができるため子どもたちの探究活動の幅を広く持てるため。

2. 活動スケジュール

6月～ 戸外での探索活動・ダンゴ虫の飼育

7月～ 夏野菜の生育・カブトムシの飼育開始

9月～ パラバルーンで空気の動きを視認する。

11月～ カブトムシの土替えや成長の観察

2月 好きな虫になりきっての体操・蛹室の観察

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・虫かご ・パラバルーン ・大きなビニール袋
- ・虫の飼い方や図鑑を多く保育室内に置いた。
- ・カブトムシ飼育用の土

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・虫かごを持っての戸外活動することで虫や自然物に対する興味を広げ、自分たちで捕まえたダンゴ虫の飼育を始めた。
- ・飼育方法や生態を知る為に図鑑や絵本を見ることで興味が深まった。
- ・落ち葉や木々の揺れを「なんで？」と興味を持ち、パラバルーンで遊ぶことで空気の動きなど探究した。
- ・カブトムシを図鑑などに見比べてじっくり観察することで卵から幼虫になり蛹室を作るまでの日々の成長の過程を発見した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・戸外活動を通して虫に対する興味が広まっていき虫かごや容器に入れて観察する姿が見られた。「園でも飼いたい」という声があったがどうやって飼うか何を食べるかなどわからないことが多かったので絵本や図鑑で飼い方を調べてから飼育を始める。毎日観察する中でどんな風に動いているか丸まっているか、落ち葉を食べているかなど気づいたことを話したり絵に描いたりする。ダンゴ虫の製作を取入れたことで飼っているダンゴ虫などイメージして作っていた。ダンゴ虫の寿命から死んでしまったものをみて「かわいそう」「さみしいね」などの声があった。「なんで死んじゃったんだろう」と図鑑を見て考える児もいた。そのころ丁度カブトムシをもらい飼育を始めた。ダンゴ虫と同様、絵本や図鑑で飼い方を調べ観察を楽しむ。毎日観察する中で「動いた!」「ウンチあるよ」「どのくらい大きくなったかな?」と気づいたことを保育者や友だち同士で話をする。土替えでは子どもたちを中心に幼虫を数えながら別の容器に移したりウンチをすくったりと進んで取り組む姿が見られた。1年間を通して虫の観察や製作、表現遊びを楽しんだ。
- ・戸外活動をする中で、風邪で木が揺れたり葉っぱが落ちてきたりと「なんでだろう?」と興味を持っていた。花や葉っぱを集めるために用意した袋も始めは物をいれていたが空気が入り膨らむと触ってみたり「やってみたい」と袋に空気を入れたりと遊ぶ姿が見られた。空気をういて室内でも風船やパラバルーンをする。特にパラバルーンに興味を持ち揺らしたり膨らませたりすることで空気が入るとこんなこともできるんだと気づき楽しんで参加していた。パラバルーンの中に入る際、膨らむときと膨らまない時があり、なんで膨らまないのかを子どもたちと考えることで隙間があると膨らまないことに気づき、隙間ができないようにする姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

戸外で遊ぶ中で虫が好きな男の子から始まり虫かごや容器を用意したことで虫の生態に他の子も興味を持ち観察や飼育を楽しむ姿が見られた。

虫かごだけではなく図鑑や飼育の絵本も用意することで子どもたちで進んで取り組んでいた。

観察や飼育だけではなく保育者が介入しなくても子どもたち自ら折り紙や廃材で虫を作ったり江緒描いたりと展開されていた。

同じく戸外活動で風邪で木や葉っぱが揺れるのを保育者の視点では当たり前のように感じていたことも子どもたちにとっては「なぜ？」という興味関心につながった。

実際に袋やパラバルーン、風船などで空気を使った遊びを取り入れることで感じる事ができていた。